

## を押し付けずに引き出す

まちづくり活動に関わられる方から、「やりたいことがいっぱいあるけれど人手が足りなくて。一緒に活動に参加してくれる方がもつとあれば良いのに」とか「お誘いしても『忙しいので』とやんわり断られてしまう」といった悩みを聞くことが多い。まちづくり活動にはお金と人が足りないのが常のようだ。

漠然と「誰かいないかな」とつぶやいていてもラチがあかない。「ネットで活動の様子を伝えたいけれど、パソコンやスマホでフェイスブックとかインスタをうまく扱える人がいてくれると良いのだが」とか「活動のお知らせチラシに親しみやすいイラストを入れたいんだけど、絵のうまい人いないかなあ」と活動に必要な具体的なスキルをイメージできていれば声をかけやすいように思う。とは言っても企業の求人のように「〇〇をやってくれる方を募集!」としてもそう簡単に人は来てくれない。

活動の理念に強く共感する方と出会えればチャンスであるが、そのような人が多くいるわけでもない。また、理念に強く共感されても、自分の時間を割いて活動のお手伝いをしていただけるとは別である。活動に参加していただけたとしても、理念を実現するためであれば言われたことを何でもやっていただけるかもわからない。ややもすると「活動の理念に強く共感して参加する」⇨「活動に参加すること」で自己実現が可能だと考える」ということで、お手伝いすることが、内容も含め自己実現につながっていないければ不満を感じてしまうことになる。

そう考えると活動内容の組み立て方も変えてみる必要があるかもしれない。活動の理念を実現するために有効な取組を考え、それを実行する人を募りマネジメントする。という流れではなく、活動に関心を持ってくれた方がやりたいこと⇨その人の自己実現につながることは何かを探り、そのことが活動の理念を実現することにつながるにはどのような取組があるだろうか?という流れにしてはどうだろうか。まちづくり活動にかかわらず、トップが強いリーダーシップを発揮し、ビジョンと取組を示し、その実現に向けて適材適所で組織をマネジメントするというやり方だけではない。「押し付けずに引き出す」ことから新たな展開を生む可能性もある。